



バスラ日誌（2月7日）

1 第7機械化旅団の亡くなった英軍兵士3名を本国送還する儀式が行われた。開戦以来の戦死者が100名を超えたと報道されていたが、ご遺体を送る儀式を目の当たりにすると、今ここで起きていることなのだ実感した。

師団司令部では、セレモニーへの参加は義務付けられたものではなく、参加希望者は、所属長の許可を得て参加するようにとメールで連絡が入っていた。メールには、集合時間、場所と服装（フロッピー帽、腕まくりは不可）が示されているだけで、開式に先立ってG1から説明するとのみ書いてあった。櫓の外からでも哀悼の意を表そうとエアーターミナルに行くと、参列者の中に入れてもらい、儀式に参加することになった。なるべく目立たないように列の中程に並んだが、ちょうど私の左列で後ろに回るよう指示があり、最左翼に出てしまった。日本隊の戦闘服だけが緑色で、目立ちたくなくても浮いていたと思う。

バグパイプの音色の中、従軍牧師が先導し、英国旗に包まれた3つの棺を、それぞれ6名の兵士が運んでいく。C-130の手前に棺が安置された後、3人の牧師が、お一人お一人のために祈りを捧げると参列者が唱和する。次に各々の所属部隊毎に、兵士が祈りを捧げ、棺がC-130の機内に納められた。心からご冥福と新たな犠牲者がでないことを祈った。

2 先日の患者後送の際、ほぼ同時に日本隊の食材の調達はどうしているかとの問い合わせがあった。その他にも何か事象が起こると別の部署から関連した問い合わせがある。初めのうちは気に留めなかったが、最近その1つ1つがリンクしているのだと思うようになった。J1からJ9まで細かく分かれた組織が一体となって動いていることに驚く。当たり前のことかもしれないが、情報の共有という点に関しては見習うところが多い。PC上のデータで必要な事項は一斉に配信される。朝夕のミーティングは、準備された資料やプレゼンテーションは全くないが、各部署が必要な事項を口頭で報告していく。師団朝会議には、全ての部署から代表が参加しており、夕方の電話会議のあと引き続き司令部内のミーティングが行われる。もちろん各セクション毎のミーティングも非常に多い。とにかくコミュニケーションの場が多く、しかしながらその為の準備には労力をかけない。ハイテクとローテクをうまく使い分けた情報共有の方法は効率的だと思う。

3 本日、曇一時雨。バスラ4名、極めて健康。